GLOBAL RESOURCE MANAGEMENT

対象 全大学院生

なぜ、文理融合か　インフラ整備ができるマネージャー、政策の立案実行ができるエンジニア

グローバル・リソース・マネジメント（GRM）は、資源・エネルギーに関わる高度な自然科学・理工学的知の体系と多文化共生に関わる人文・社会科学的知の体系を統合した「文理融合」による博士課程教育プログラムです。所属の研究科・専攻の教育課程とは別に履修する追加型大学院教育プログラムで、専門職大学院を除く全研究科・専攻の大学院生が履修できます。GRMは、世界資源の公正な分配と運用という視点から文理融合の教育を実践し、履修生が専門的な知識をベースに物事を多面的に捉える力をもって持続可能な発展と多文化共生社会の実現に向けて進んでいけるようバックアップします。

同志社大学
Doshisha University

高等研究教育院

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL：075-251-3259　MAIL：ji-grmld@mail.doshisha.ac.jp
https://grm.doshisha.ac.jp

視野が広がるから、出口も無限大。進路とキャリアパスへの取組

GRMプログラムでは、汎用性と応用力を備えた基礎能力を涵養し、分野や職種に縛られずに活躍できる人材育成を目指します。また、インターンシップに係る経費の一部も補助するなど、将来のキャリアへ繋がる指導やサポートを行います。過去には、GRMプログラムの修了生をゲストスピーカーとして招き、博士学位取得者のキャリア選択や、進路決定に至るまでについて貴重な声を聴く機会を設けています。GRMは、博士学位取得者としてのキャリア開発についてより深く考え、意識付けを行う場となり、多くの履修生が就職活動に活かしています。

▼GRMリーダーが活躍する進路

産
- グローバル展開する企業で、文化摩擦による争議・衝突を未然に防ぐマネジメント力を備えたエンジニア・マネージャー・経営者
- 異文化の社会を積極的に市場として取り込むためのイノベーション戦略を描ける人材

官
- 多文化共生の現場を熟知しつつ、日本独自の援助・開発・紛争調停・平和構築をリードする公務員・政府系機関職員

学
- 現代のグローバル・イシューズに対する現実的分析能力を持ち、既成概念にとらわれず新たな地平を拓く先端的研究者

国際機関
- 国連の持つ調停力の限界を打開する新たな知見と判断力を備え、紛争抑止と平和構築、復興に貢献する国際公務員

就職実績

- 大手電機メーカー
- 外資系資源・採鉱・精錬技術メーカー
- 大手空調機器メーカー
- 外資系大手不動産開発会社
- 外資系大手資源開発会社
- 産業用ドローン製造販売会社
- 国立研究開発法人
- 大手分析・計測機器総合メーカー
- 大手産業・研究機関向け真空装置メーカー
- 造園関連企業
- 私立大学専任教員
- 外資系医療専門コンサル
- 海外大学研究員
- 独立行政法人
- 私立大学外国人留学生助手
- 私立大学特別任用助手

MESSAGE

現代世界の閉塞的状況を突破するためには、人間生活の物質的基盤（インフラストラクチャー）、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造が必要である。そのために、同志社大学が長年にわたって高度な研究・教育実績を有する資源・エネルギーに関わる自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学的知の体系を統合した文理融合による博士課程教育プログラムを創造する。自然科学・理工学系からは、電力、エネルギー、情報、交通、水資源管理の領域がプログラムに参加する。人文・社会科学系からは国際的に研究をリードする多文化共生、神学、人間の安全保障、紛争抑止、平和構築、開発学、政策科学、社会福祉学等の領域がプログラムに参加する。中でも、イスラーム世界との共生をグローバルな多文化共生社会の課題として重視する点が特色である。

国の施策としてのグローバル・リーダーの養成を目的にしながらも、いかなるリーダー像を描くかという点については本学独自の方向性を打ち出している。ここでいうリーダーとは、既存の成功者をモデルとするものではない。また、一国の支配者を養成しようというのでもない。第一に、今の日本の閉塞的状況を打開するには、すでに少子化の著しい日本に留まっているだけでは難しい。インドネシア、トルコ、中国など若年人口の層が厚い新興国において互いに切磋琢磨することで、彼らのエネルギーを肌で感じ、その中からいつかは日本の再生に貢献する人材を育てたい。それと同時に、今日の世界で最も困難な状況に直面する国や地域に暮らす人々と共に困難を打開する知恵を育み、それを実現に向かわせていく人材を養成しようとするところに、本プログラムの構想するグローバル・リーダーの姿がある。最困難国（地域）としては、本学で平和構築に取り組んできたアフガニスタン、パレスチナのガザ地区など人道の危機にある地域に焦点を当てていきたい。

履修生一人ひとりが、地球市民としての貢献を絶えず意識しながら5年間の大学院博士課程を過ごしてほしいと考えている。

博士学位をもち、持続可能な発展と多文化の共生に多様な分野で貢献する人材を育てていくことが、リーディングプログラムの人材養成の目標なのである。

プログラム・コーディネーター
内藤 正典
（グローバル・スタディーズ研究科教授）

「グローバル・リソース」の視点から多文化共生の課題に挑む

同志社大学高等研究教育院が実施するグローバル・リソース・マネジメント(GRM)プログラムは、「グローバル・リソース・マネジメント」という文理融合の視点で、今日、最も困難な状況にある国から新興国までを対象に、強靭な精神と高度な倫理観を持って活躍していくグローバル・リーダーの養成を目指しています。

※本プログラムは、文部科学省が推進する「博士課程教育リーディングプログラム」の複合領域型(多文化共生社会)に採択され、2012年度から2018年度までの7年間、国の補助金によって運営してきました。2019年度からは学内の全研究科に展開しています。

本プログラムが養成する人材

❶生存の危機に瀕する過酷な状況にある人々に寄り添い、共に学ぶことで困難を打開する志を持つ
❷そのために必要な人文・社会科学と自然科学の諸領域を統合知として習得する
❸文理融合の知を基に、「公正」とは何かを意識し、宗教間・民族間の共生を志向する
❹「公正」の観点から、地球的課題としての困難の発生を抑制し、また発生した困難からの復興と発展に取り組む
❺発展の途上にある新興国においては、発展の持続性と格差の縮小に取り組む
❻新興国での取り組みや成果を日本に還元し、これらの諸国と戦略的パートナーシップを築いていく

本プログラムの特色

1 ➤ 人々と共に切磋琢磨し、困難に挑むGRMリーダーへ

GRMリーダーとは、現地のエネルギーを肌で感じ、あるいは現地の人々の困難に寄り添い、
人々と共に活動する中で得た知見と経験を、日本そして世界の発展へとつなげる先導者を意味しています。

2 ➤ 資源を切り口に、世界の問題を考える

現代社会が抱える様々な問題の背景には、資源やインフラ(=リソース)の不均衡があります。このリソースをいかに安定的に分配するか、いかに持続可能な発展の可能性を探るかという視点から多文化共生の可能性を追求します。
本学は一神教間の宗教対話について、日本で最高水準の研究実績を誇っています。一神教学際研究センターでの実績をもとに、宗教間の共生を多文化共生社会の課題として重視する点もGRMの特色です。

グローバル・リソース・マネジメント

福祉国家の限界 / 突発的 巨大災害 / 産業構造の閉塞状況
戦争・災害 / 宗教・民族に関する紛争 / 貧困の格差

国家の枠組みを前提にできない現実において
多文化共生の可能性を追求することが喫緊の課題

現代社会が抱える様々な問題の解決には、
資源・エネルギー・インフラの開発と再分配が必要

多文化共生の課題群を解決に導く
グローバル・リーダーを養成

3 ➤ 文理融合の知識を身につけ、実践する

資源・エネルギーに関わる高度な自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学的知の体系を統合した、「文理融合」による博士課程教育プログラムを構築し、提供します。
現代世界の閉塞的状況を突破するために、人間生活の物質的基盤(インフラストラクチャー)、社会的基盤、精神的基盤の3領域を統合的に扱う新領域の創造を目指しています。

GRMのカリキュラム

GRMでは、博士学位取得者が広く社会で活躍できるようになるための基盤を形成します。すなわち、幅広い視点や考え方を持ち、何をすべきか自分で考え、能動的に他者との協働によって問題を解決できるようになることを目的としています。

講義系科目

大学院の専門科目は学部での科目に比べて細分化され、深い内容となっていきます。一方、現実世界の問題はますます複雑化しており、解決のためには多面的なものの見方や柔軟な思考が求められています。GRMの講義では「資源管理」を軸として物事の多面的な捉え方や自分の専門とは異なる問題解決手法を学び、幅広い視点や思考法の獲得を目指します。

科目例

- **Resource Management for Coexistence and Cultural Diversity（GRM601）**
  GRMプログラムの導入科目です。「資源」の適切な開発や管理によって諸問題を解決し共生社会の実現を目指すという、GRMの理念を共有します。講義では「資源」についての考え方を示し、そこから起こりうる問題について説明を行います。
- **Capacity Development for Coexistence and Cooperative Works（GRM602）**
  対話や議論、自己表現といった、協働のための基礎能力を身につけるための科目です。
  さらにその前段階として、自分自身について知るための自己診断と社会に求められる汎用的な能力・態度・志向の測定もこの科目に含めます。

演習・実習系科目

社会では何をすべきか自分で考え、能動的に行動することが求められます。一方、複雑高度化する問題の前では、たとえどのような人でもひとりで全てのことには対処できません。よって、専門性や考え、意見の異なる人たちとチームを組んで問題解決にあたることが必要です。GRMでは、自分のことは自分で決めながらも他者と協働できる能力を身につけるためにグループワーク演習を何度も行います。

科目例

- **Group Work Practice Ⅰ（GRM650）**
  最初に履修する実習系科目です。グループワークを通して、複合的問題に対する取り組み方を実例から学び、体得します。ある問題には、様々な切り口がある点を講義で学び、現地見学を通じて現場の状況を知ることに重点を置いています。
- **Group Work Practice Ⅱ（GRM690）**
  博士前期課程の最終セメスターで履修する科目です。グループワークによって、プロジェクト立案から情報収集や課題の設定、解決策の構築までを一連の手順として学びます。この科目は、GRMプログラムの中間審査チェックポイントとしての機能を兼ねます。

正課外活動

GRMプログラムは、博士学位取得者が社会で広く活躍する場を創出・拡大できるよう、キャリア支援の一環として、博士課程の後期課程に在籍するプログラム履修生を対象にインターンシップ活動経費補助を行います。また、正課外活動の一環として、各界で活躍する著名な方々を招いて講演いただく機会を設けています。他にも、他大学との合同事業実施などの実績があり、学生同士の切磋琢磨による人的交流や学生交流に効果を上げています。

主なインターンシップ先(一部)

- 三菱商事ベオグラード駐在事務所
- Country Garden(中国)
- 電力中央研究所
- UNIDO東京事務所
- 西日本技術開発株式会社
- 独立行政法人自動車技術総合機構 交通安全環境研究所
- 株式会社自立制御システム研究所
- ダイキン工業株式会社(タイ)
- 株式会社堀場製作所

過去の講演者(一部) ※職名は講演当時のもの

- 緒方貞子氏(国際協力機構(JICA)特別顧問)
- アフメト・ダウトオール氏(トルコ前首相)
- 西田厚聰氏(東芝会長)
- フサイン・アッバーシー氏(チュニジア労働総同盟事務総長)
- 後藤裕史氏(国連事務局政務局 安全保障理事会部官房課政務官)

他大学との合同事業

フィリピン大学、ハマド・ビン・ハリーファ大学、リュブリャナ大学、広島大学など他大学の学生と共同で行う演習、フィールドワークや国際会議もあります。